

附属図書館企画展示
合言葉は Commons!
—お茶大から広がる commons の世界—
(2013年6月3日～7月31日)

二つの「commons」

2013年6月12日
附属図書館 キャリアカフェ

お茶の水女子大学長
羽入 佐和子

プログラム

1. はじめに：本学の二つのコモンズ
2. お茶大附属図書館のLearning Commons
3. お茶大SCC (Students Community Commons)
4. 本学の歴史と学生寮の歴史
5. お茶大のリーダーシップ教育
6. お茶大のグローバル人材育成推進事業
7. お茶大附属図書館への期待
8. まとめとメッセージ

1. はじめに：本学の二つのコモンズ

(1) 附属図書館 Learning Commons (2007年)

(2) お茶大SCC Students Community Commons (2011年)

2. 図書館のLearning Commons: [共に学び・共に成長する]

☆ラーニングコモンズ (2007年4月 開設)



☆キャリアカフェ (2007年12月 開設)

企画

職員と職員
職員と教員



学生と学生
学生と職員
学生と教員
学生と卒業生
学生と企業

① 理念の作成

☆図書館職員と図書館長 との最初の協働作業 (2006年)

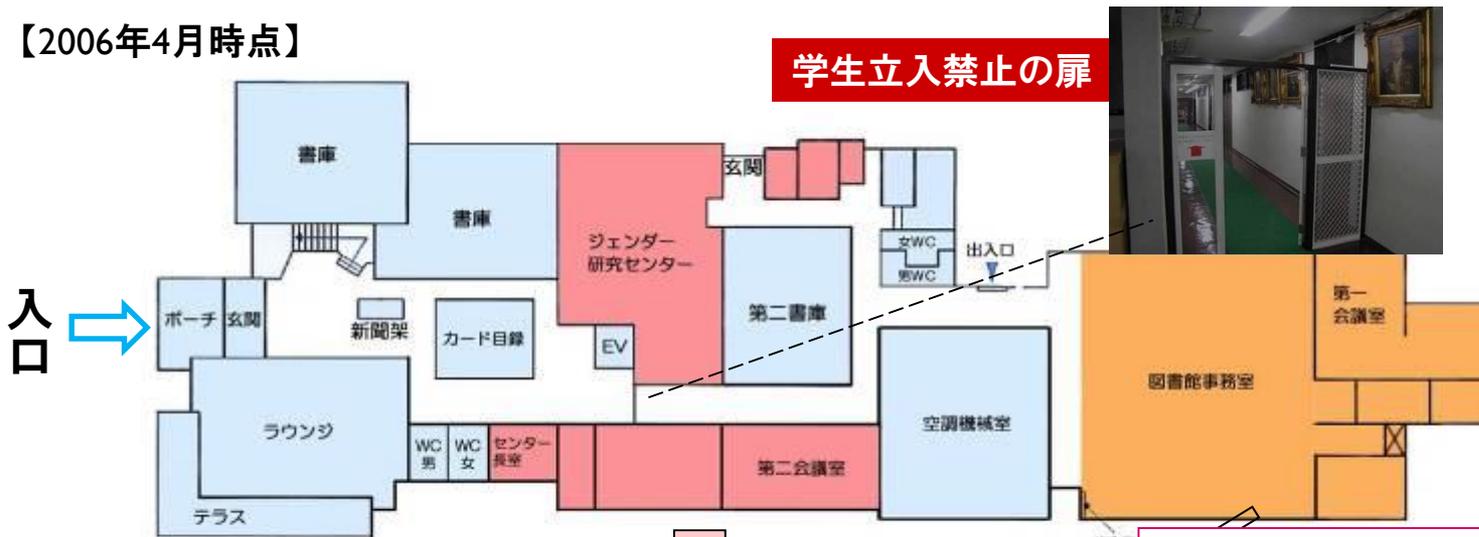


図書館入口に掲げられて
いる理念

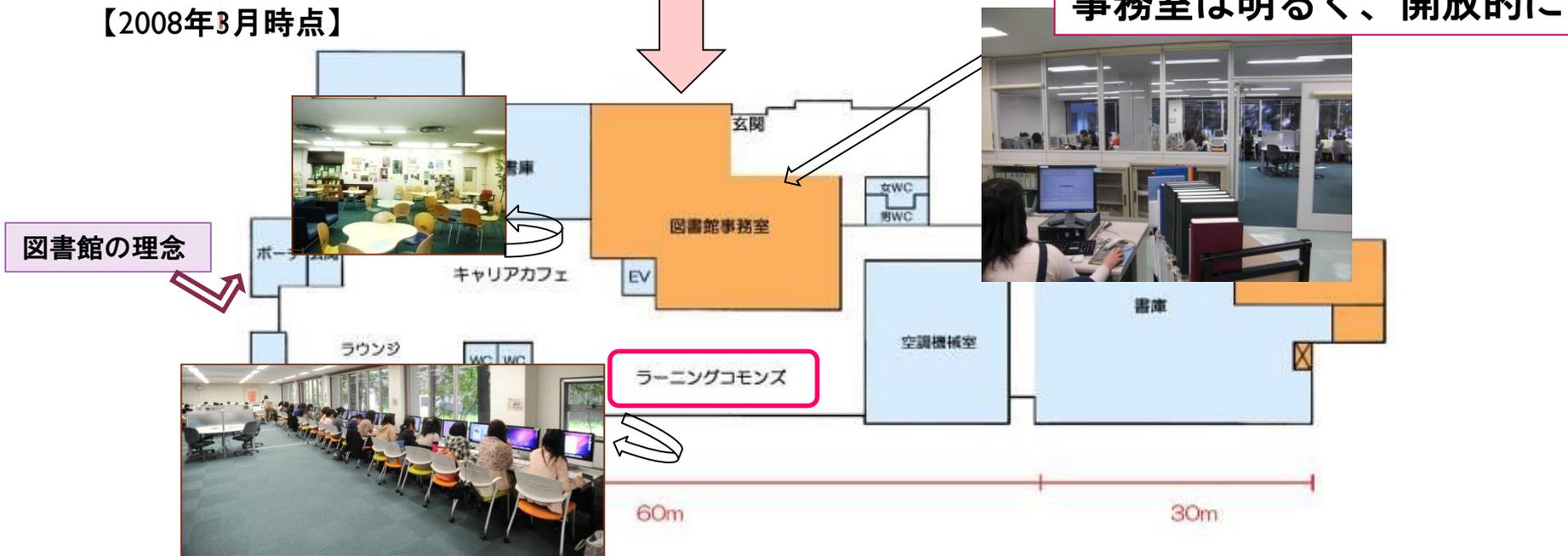
お茶の水女子大学附属図書館は、時間と空間を超える知的交流の場であり、次世代の知を創造し発信する学術情報基盤として機能する。

② 図書館の改修＝「壁」を壊した図書館

【2006年4月時点】



【2008年3月時点】



☆お茶大図書館施設面での改善（2007～2010年）

- 2007年 4月 ラーニング・ commons の設置
- 2007年 5月 事務室の移転
- 2007年11月 ラウンジのリニューアル
- 2007年12月 キャリアカフェオープン
- 2008年 2月 キャリアカフェ部分改装
- 2008年 3月 集密書架（13万冊収容可能）設置
- 2008年 3月 大学院生用研究スペースの設置
- 2009年 5月 オープン書庫の設置
- 2010年 2月 視聴覚コーナーのリニューアル
- 2010年 4月 利用者用トイレ改装

増改築なし、部分改装のみ



| | | |
|--------|---|-------|
| 学生スペース | ⇒ | 1. 8倍 |
| 書庫スペース | ⇒ | 1. 8倍 |
| 事務スペース | ⇒ | 26%減 |
| 館長室 | ⇒ | 33%減 |

ラーニング・コモンズの日常

授業・講習
会スペース

持ち込み
PC席



人気の立ち席

キャリアカフェの日常



プレゼンテーション&
コミュニケーション

라운지의日常

大きな机で
自習



③ 学生・職員・教員の協働

LiSA(Library Student Assistant)

- LiSAは、学生と図書館スタッフの協働による図書館活性化のための活動
- 学生は、図書館業務経験を通じて、
 - i) キャリア意識形成
 - ii) サポートされる側からサポートする側の視点の拡大



左、職員から作業内容の説明を受ける

右 活動報告ブログ <http://ochadailisa.blog32.fc2.com>

☆LiSAの業務風景



図書装備



データ入力

次々生まれるLiSA自主企画

見学

展示



書架整理

☆情報基盤センターとの連携

ラーニング・アドバイザーが常駐

- ・ラーニング・コモンズ（約80台のPC）の管理
- ・ノートPC（40台）自動貸出ロッカーの設置と管理



出動中

待機中



☆キャリア支援センターとの連携

☆グローバル教育センターとの連携

- キャリアカフェでの活動



☆効果と評価

- 学生の関心と入館者数の増加

- 241,000人(平成20) → 263,000人(平成21) → 282,000人(平成23)

- 学生のインターンシップ ⇒ 「修了証」

「LiSAの仕事は、働くということに対しての価値観や意識を変える大きなきっかけになりました」

「LiSAの業務を通じて、資料の探し方が自然と身につきました」

「参加する一人一人が自由に業務に対する視点を見つけて取組めるため、各々が自分にとって必要な学びや気づきを見つける機会となっている」

- 職員の多様な才能の発揮

第11回図書館総合展／学術情報オープンサミット2009」のポスターセッションで最優秀賞を受賞！

連携・協働

主体性・創造性を発揮

- 学外の高い評価



・ 図書館として競争的資金を獲得する

- 学外評価が学内評価に反映した

3. お茶大Students Community Commons

[共に住まい・共に学び・共に成長する]

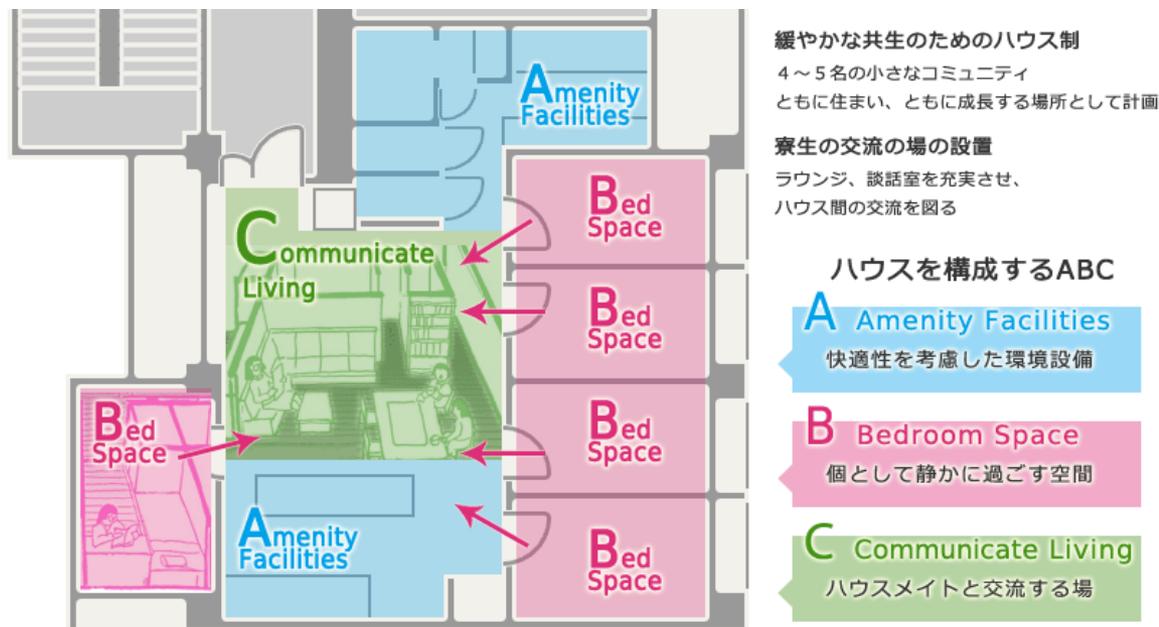
- 開設までほぼ2年半
- 理念の作成
- 機能の検討
- 理念を設計に写す ⇒グッドデザイン賞 (2011年)

- 2011年開設
 - 最初の利用 2011年3月12日

- 教育施設としてのSCC
 - ⇒「学修プログラム」実施

☆お茶大SCCの特徴的な構造と学修機能

● 構造



● 学寮アドバイザーの存在

- ・寮生と協働して各種イベントを企画したり、困ったときの相談窓口
- ・学生支援室、保健管理センターなども連携して、寮生の学修の場を提供したり、心身の問題にも対応

☆ 学修機能

- RA制度開始 2013年度
 - ・ お茶大SCCで2年間過ごした3年生をRA（レジデント・アシスタント）として任命
 - ・ 在寮しながら、お茶大SCCの理念「共に住まい、共に学び、共に成長する」を教職員とともに推し進めている
 - ・ 後輩と空間を共有しながら互いに切磋琢磨し、リーダーとして能力を向上させる
 - ⇒ お茶大SCCならではの取組みの一つ
- 「学修プログラム」は年に3回程度講師による講演→発表準備→学修成果発表



☆お茶大S C Cの年間行事（2012年度）

- ウェルカムパーティ [4月 5日]
- お茶大SCCオリエンテーション [4月14日]
- チームワーク作りのためのワークショップ [4月14日]
- 第1回 学修プログラム・発表会 [4月14日・5月19日]
- ハウスの表札作り [4月中旬～5月中旬]
- 清掃指導のワークショップ [5月22・29日]
- 第2回 学修プログラム・発表会 [6月16日・7月14日]
- お茶会 兼 ワークショップ [7月15日・29日]
- 第3回 学修プログラム(寮生による自主企画) [10月 7日]
- 第2回 お茶大SCC寮祭 [10月14日]
- SCC-RA説明会 [10月24日・11月 2日]
- 第4回 学修プログラム(寮生による自主企画) [12月15日]
- 修了証書授与式 [3月21日]

4. 本学の歴史

① 創設

- 東京女子師範学校（お茶の水女子大学の前身）
創立の経緯

木戸孝允（文部卿）の布達：明治7年3月

女子の教育が男子と優劣の差が生じることのないよう
女子師範学校を設ける

（文部少輔による太政大臣宛設立建議書〔明治7年1月〕を受けての布達）



「女性の力を、もっと世界へ。」

（2013年グローバル人材育成推進事業標語）

②名称の変遷と校舎の移転

- 1875（明治 8）年 東京女子師範学校創立

御茶ノ水（文京区湯島）



- 1885（明治18）年 東京師範学校女子部
- 1886（明治19）年 高等師範学校女子部
- 1890（明治23）年 女子高等師範学校
- 1908（明治41）年 東京女子高等師範学校

※大学の移転 1932（昭和 7）年
御茶ノ水から現在地（文京区大塚）へ移転

- 1949（昭和24）年 お茶の水女子大学設置
- 2004（平成16）年 国立大学法人
お茶の水女子大学



5. お茶大のリーダーシップ教育

• リーダーシップ教育のキーワード



リーダーシップ教育 “Migakazuba”

リーダーに必要な力

Respect for others

心遣い

Intelligence

知性

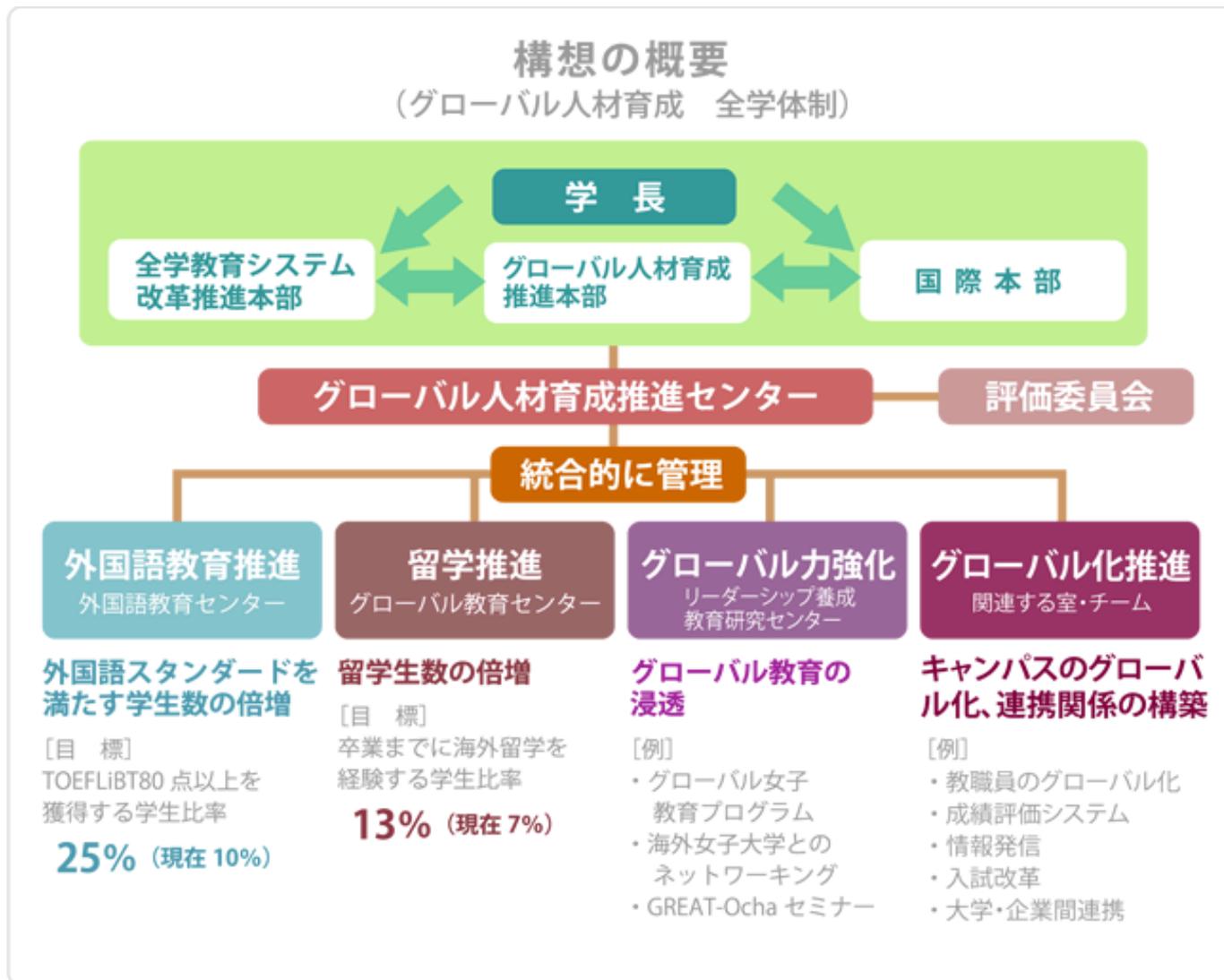
Confidence

しなやかさ

＝ 共に在ること

6. お茶大のグローバル人材育成推進事業

2012年開始：全学型の事業として採択された国立大学は4大学のみ



7. お茶大附属図書館への期待

☆大学図書館としての先進性を発揮して、 第3のステージへ

第1stage : ラーニングコモンズ、キャリアカフェ、情報教育

第2stage : 情報機能のガバナンス・情報セキュリティ強化

第3stage : 時代状況に即応し、未来を担う人材育成機能の構築

- これまでの成果と実績
 - 全学の協働体制の実現
 - 理念=機能=構造の一体化
 - 職員主体の企画

- 今後の展開の方向性への期待
 - 専門的人材の育成
 - 国の学術情報基盤構築状況との協働

☆大学図書館職員の役割の変化の方向性

- 新たな存在意義を担う。
- 大学の存在意義、学術基盤の在り方を方向づける。
多様化、多機能化、高度化
- 対応
人材育成
経済的基盤の確保
業務の見直し

図書館の基本的機能に変化はない。

ただし、大学には、教育、研究、社会貢献、産学連携などの多機能性が求められてきている。

大学へのこの期待が先鋭化した形で、大学図書館の役割がクローズアップされ、それに伴って、

図書館には多様な役割が期待され、図書館職員には多元的能力が必要になる。

☆お茶の水女子大学附属図書館の強み —大学との協働の実績があること—

(1) 大学の戦略との密接な連携 ⇒ 大学の競争的資金獲得への対応

☆「21世紀型リベラルアーツの創成」 → リベラルアーツ仕様の図書館

- ・ 情報教育
- ・ テーマ志向型授業科目の設定

☆大学院改革支援プログラム

「日本文化の国際的情報伝達スキルの育成」（平成19～21年度）

→ 日本学研究コーパスの構築 soil; Subject Oriented Index Library

☆特別研究経費「女性が進出できる新しい研究分野の開拓」（平成19～21年度）

→ 先駆的女性研究者のDB作成

☆現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム

→ キャリアカフェ開設

☆科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業

「挑戦する研究力と組織力をもった若手育成」（平成19～23年度）

→ 研究環境の整備；電子ジャーナル、DB

(2) 大学職員としての意識

☆理念の作成 職員の意識改革の契機

(3) 大学図書館として多機能空間の創出

☆図書館改修

☆社会の中にある大学と大学図書館

※ 社会的存在としての大学の意義が重視されるのに伴い、大学との協働関係にある大学図書館も社会的役割に対して敏感であることが求められる。

- 大学の社会貢献へのInterfaceとしての役割
- 地域との連携
- 国際化への対応
- 教育・研究成果の発信

＝「共に在る図書館」

8. まとめとメッセージ

- 「〈関わり〉と〈場〉があってはじめて人は有能になる。」
- それが ‘Commons’ !

国立女子大学としての社会的役割を果たすためにも、お茶大附属図書館が、「共に学び」「共に成長する」場として、第三のステージを展開することを期待しています。

そして、図書館の新たな展開が、お茶大の発展を加速させる力になりますように！

ご清聴ありがとうございました。

